

令和6年度第1回松江市総合教育会議

日時：令和6年9月27日（金）9：30～ 場所：玉湯学園

出席者：松江市長 上定昭仁

松江市教育長 藤原亮彦

松江市教育委員 塩川寛、大谷みどり、金津式彦、原田順子

学校関係者 玉湯学園 校長 田中修

玉湯学園 教頭 前島美佐江

市長部局 理事（政策部長） 松浦徹、市長公室主幹 山内巧

教育員会事務局 副教育長 藤原雅輝、副教育長 川上諭

次長（教育総務課長）大谷晶子

学校教育課長 後藤幸広

学校教育課教育指導官 米原哲治

学校教育課 ICT 教育整備係長 内村誉

学校教育課 ICT 教育推進係長 石倉陽

学校教育課 ICT 指導講師 内田晴己

教育総務課総務係長 岡野敬祐

○川上副教育長

それでは定刻になりましたので始めさせていただきます。本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。これより、令和6年度第1回松江市総合教育会議を開催いたします。

本日、司会を務めさせていただきます副教育長の川上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、開会にあたりまして、上定市長から御挨拶申し上げます。

○上定市長

皆さん、おはようございます。

教育委員の皆様におかれましては、お忙しい中、また朝早くから時間を割いていただきましてありがとうございます。また今回会場の提供と授業の視察を玉湯学園でやらせ

ていただくということで、田中校長先生ありがとうございます。

今回のテーマが、ICTを活用した教育の推進ということでございます。

松江市も全国的なGIGAスクール構想の流れの中で1人1台端末の配備を進めておりまして、皆様のお手元の資料にもありますが、1人1台端末が15,769台、電子黒板が777台配布されておりまして、そういう意味ではハードが整ってきたというのは皆様も実感としてあると思います。それをいかに教える側が、また教えられる側が使いこなしていくかということに尽きるわけです。

これも今回の資料に付けておりますが、アンケート調査の結果、教える側は十分に活用していこうという意気込みがある一方で、教えられる児童の側は必ずしもタブレットを使いこなせていないというか、もう少し使っていける余地があるのではないかという若い世代の発想として見えているという統計も出てきているところでございます。当然使いこなせてなんぼというところがありますので、今日は実際の授業をまず拝見させていただいて、特に松江市内の中でも玉湯学園はGoogleワークスペースを導入した上で先進的に進めていただいておりますので、1年生の図工と算数、3年生の社会、4年生の総合的な学習の時間と8年生の社会という非常に幅広く教科も多岐にわたる授業を見させていただいて、その後に皆様方と意見交換をしていきたいと思っております。

また通常の学校教育と同じ中ではありますが、学校に通学するのが難しい児童、生徒を対象にした「ボタンねっと」というオンラインでの授業も今年度から本格化して松江市の教育委員会で進めております。これも当然オンラインでICTの活用という流れによるものでございますのでそのあたり多岐にわたるといえるか、今回のテーマもあまり狭く限定するものでもございませんので、皆様を感じていらっしゃるようなところ、或いは科学技術の進歩や社会のグローバル化などを背景にして、どのような教育であるべきか、松江でどうされるべきかといった地域性も含めて御意見いただければと思っております。

今日は何卒よろしく願いいたします。

○川上副教育長

ありがとうございました。

本日は、松江市におけるICTを活用した教育の推進をテーマに、玉湯学園を視察させていただきながら、市長と教育委員会で本市教育の課題や目標を共有し、連携して教育行政を推進していく場としていきたいと思っております。

本日の出席者につきましては、お配りしている出席者名簿を御覧いただければと思います。

また本日のスケジュールについては、この後教室に移動し、授業の様子を御覧いただきます。その後この会場に戻り玉湯学園と教育委員会学校教育課からの説明を挟み、意見交換に移らせていただきたいと思いますと考えております。

それでは、視察に先立ちまして玉湯学園から御説明をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○玉湯学園 前島教頭

失礼いたします。玉湯学園の教頭の前島と申します。

授業の視察に先立ちまして玉湯学園の取り組み、この後の授業概要にも繋がる場所を簡単に紹介させていただきます。

お手元の方にもパワーポイントの資料は置いてございます。

本校は昨年度からリーディング DX 事業に取り組んでおります。今映し出しておりますのがその事業構想になります。「子どもの学びの変革」、「校務の DX」、「地域内外との交流・連携・情報発信」の3つを柱として取り組んでいます。

こうした3つの取り組みを通して一番狙っていることを最初に掲げております。ここに載せておりますのは、「紙からデジタルへの置き換えに留まることなく、子どもたちの学び方そのものの変革につなげていく」、「教えられる」から「自ら学ぶ」といった主体的な学習者の育成を目指しています。取り組みの特色としては、Windows の端末での Google ワークスペースの活用を進めており、昨年度より全教職員、児童、生徒に Google アカウントを発行して取り組んでおります。

取り組みのスタートにあたり「ICT 活用能力体系表」といったものを活用しています。お手元の資料では見えにくいかもしれませんが、この後の資料の方で大きくしております。この体系表自体は実は玉湯学園に数年前から作ったものが置いてありました。ただこれを日常的に意識したり活用したりしていたかというところではありませんでしたので、まずこれを意識するところから、教職員自身が9年間の育ちを見据えて、今どのような力を子どもたちに育むべきかを意識して教育活動を行うことが確かな力の育成に当たるのではないかと意識して取り組んだところです。また、実際に取り組んでみて加筆修正を加えながらブラッシュアップしていくというスタンスで取り組ん

でおります。

昨年度がスタート当初ですが、主に Google を使うのは 5 年生から 9 年生で、本校の 1 年生から 4 年生にあたる前期ブロックはスカイメニューの活用を想定していました。しかし昨年度の途中から 4 年生も Google にシフトいたしました。そして今年度は 3 年生も積極的に Google を使うことにしております。今日は 3 年生、4 年生の方でも Google を活用しているところが御覧いただけると思っています。

それでは、前期ブロックで育てたい力を説明しながら本日の授業について概要を紹介いたします。

まずは 1 年生から 4 年生の前期ブロックです。育みたい姿として、最初に掲げております「目的をもって写真を撮ったり、撮影した写真の中から伝えたい内容のものを選び、クラスで発表したりできるようになる」というようにしております。低学年では写真撮影と写真の活用に重点を置いています。本日 1 年 1 組の図工の授業ではそのような姿を御覧ください。

次は、「調べたい内容をキーボード入力して検索し、集めた情報を比べ、自分なりの言葉でまとめて記録することができる」というふうにしております。タイピングは 3 年生から始めております。4 年生ではほぼ問題なく入力できます。本日の 3 年生と 4 年生の授業は両方とも共同編集機能を使いながら随時友達の考えを参照し、自分の考えを広げたり深めたり、或いはまとめたりする様子を御覧いただければと思っています。

前期ブロックを受け、中期ブロックでは Google の様々なアプリを使い、情報の整理分析の力、まとめる力の向上を目指しております。本日は時間の都合上中期ブロックの方の御案内はいたしません。

後期ブロックです。後期ブロックは端末を使いこなせることを前提とした上で、より生徒による主体的な学習を進めています。本日の 8 年生の授業でもテーマ設定や学習形態、学習過程の多くの場面で生徒が自己決定する様子が見られるかと思えます。どうぞ御覧いただければと思います。

そして、こどもたちに選択、自己決定させる経験は、決して後期ブロックにおいてのみでなく低学年においても必要な経験だと思っています。

本日の 1 年 4 組は算数の復習の授業です。よくある復習の時間ですが、この復習の時間において、こどもたちが自分たちの進捗で、ある児童は二次元バーコードを使いタブレットを使って解く児童、或いはノートや教科書に書き込む児童など、児童の進捗で進

めていく様子を御覧いただければというふうに思っております。

それでは授業を御視察いただいた後、後半の部分はその上で玉湯学園の取り組みについて説明をさせていただきたいと思います。

○川上副教育長

ありがとうございました。御質問等あるかと思いますが後ほどの意見交換の際にお願いいたします。

それでは視察に移りますので移動をお願いします。

○川上副教育長

御視察いただきありがとうございました。

それでは、玉湯学園の取り組みについて御説明をさせていただきたいと思います。

○玉湯学園 前島教頭

失礼いたします。先ほどは授業視察いただきありがとうございました。

今前の画面に映しておりますのは、今年の夏の研修で目指す授業の1つの方向性として本校の教職員に示したものです。このリーディングDXスクール事業を去年の6月から始めましたので、ちょうど1年くらいが過ぎたときでした。昨年事業を始めるときには、とにかく教職員も子どもたちもICTを使ってみましょうというスタンスで始めました。しかし1年が過ぎ、私たちの取り組みは使ってみるという段階から確実にステップアップしてきたよねと。さらにステップアップしていくための授業の方向性として複線型授業もその1つであるというふうに思い、教職員と現在共有し目線合わせをしているところです。

玉湯学園の定義というふうに書いておりますが、自己課題の解決に必要な情報、インターネットや教師の話、或いは他の生徒の話、時には他の生徒の学習過程そのものが子どもたちにとっては自己課題解決のために必要なための情報として捉え、それを生徒が欲しいタイミングで入手できる学習展開です。何からどのような情報を入手するのかを生徒に委ね、自己決定させ、自分で選択した学習過程を振り返ることで、生徒自身が学習スキルを身につけていく学習というふうに捉えています。ICTを活用することで生徒に多様な学びを提供できることも特色だと思っています。

この複線型授業について先進校で紹介されていた3つの指標がとても分かりやすかったので、このときに本校の教職員とも共有しました。

複線型、一斉ではなくて、子どもたちの多様な考えを反映すると、1つの教室の中で多様な学習スタイルというか、見られていくわけですが、3つの視点で考えたとき、1つは「学習課題」。皆が同じ学習課題を解くのではなくて、ある程度子どもたちに自分で学習課題を設定させるというのも1つあると思っています。

次に「学習過程」。課題を設定し、情報収集、整理分析、まとめ、表現するといった課題解決的な学習展開の中で、その中でも、情報収集の場面であったり、まとめ、表現といった場面で子どもたちが自分で手段を選択するとか、例えば3番目の「学習形態」では、それを1人で取り組むのかペアで取り組むのか、集団で、グループで取り組むのか、そういったような視点で、複線型、子どもたちの多様な考えと言ってもいくつかの視点があるかと思っています。そういったようなものを1つ視点に持ちながら、自分たちの授業を振り返る視点として持っています。

5月29日に公開授業を行いました。このときの公開授業のスタイルですが、全学級33クラスの授業を公開しました。参観者は自由に授業を参観するスタイルで、ペーパーレスでクラウド体験型のものです。このようなスタイルも授業研究のあり方に提案性を与えるものというふうに考えております。このときの授業も、複線型、先ほどの視点でもう1回自分たちの取り組みを見直してみようということで教職員と振り返ったりもしました。お手元の資料にもその時の授業の概要をいくつか載せておりますが、例えば8年生の授業では「江戸幕府はなぜ260年も続いたのか。」というテーマのもと授業が行われていました。いくつかのポイントを示しているのですが、例えば単元や、1単元、1時間の授業が探究的な学びになっているのかどうか、ゴールを明確にして的確な指示を出すこと、こういったことも生徒の主体的な学習のポイントになるかと思っています。これはタブレットの活用、そういったことの使用有無にかかわらず大切な視点ではないかと思っています。

授業者は手元のタブレットで生徒の進捗状況を確認し、的確な支援をしていく、ですとか、スプレッドシートで各自の進捗状況を共有しながら、どの友達を参照しようかというところも子どもたちが参考にしていくといったような授業スタイルで、今日の8年生の授業もそれに近いかと思っています。

これは9年生の授業です。明確で取り組みたくなるようなまずパフォーマンス課題が

あった。こういった子どもたちにとって切実な課題があるかどうかというのは、これはやはり ICT の活用にかかわらず大切なポイントだと思っています。このときは教室には関連した書籍も置かれていました。多様な学びを提供し、アナログなのかデジタルなのか、これ自身も子どもたち自身が判断をしていくと。生徒自身がアナログとデジタルのベストミックスを図っていくことが重要だと考えています。このときは子どもたちの最後のパフォーマンスである成果物も、アナログかデジタルか生徒が選択するような形でした。

このとき、低学年はやはり写真を撮影して観察をしていました。観察カードを描く際に、撮った写真を参考にしながらタブレットを活用することで後からでも確認することや繰り返し確認をすることが可能となり、対象への理解を深めることができました。写真とそれに対する説明文と一緒に蓄積することができることもデジタルの良さかなと思っています。

デジタルでも紙でもやはり共通して大事なことはある。その中で、デジタルだからより便利になったり可能になったりする部分は一体どうなんだろう、どこなんだろうかというところを意識して取り組むようにしています。

先ほどの部分は一部の紹介です。ホームページには全て載せておりますのでまた御覧ください。

このような教師の視点から見た授業改善ですが、実は校務での活用が授業での活用に向けて効果的で、相乗効果が大きかったというふうに感じています。

少しだけ校務の DX についても触れて説明を終わらせていただきたいと思います。校務の DX ですが、本校ではまず Google クラスルームと様々なアプリを使って校務の DX を図っています。最初に始めたのはアンケートフォームで、現在欠席連絡等もこれで行っています。様々なアンケートも今この方法で取っております。そういった便利さを実感する、そして毎日のように使うというのが1つ大きいかと思っています。

実は教職員が一番便利さを実感したのがこの日報でした。本校は教職員数も多いですし、前期課程と後期課程の教職員では1日の時間の使い方に違いがあって、なかなか全体で情報を共有するということが非常に難しかったです。スプレッドシートの日報に変えました。右側の部分が掲示板になっていまして、どこからでも連絡事項を打ち込むことができますし、どこからでも確認することができます。これによって細かな情報連絡が非常にスムーズになりました。これを毎日皆が見るところから徐々に充実して

いきまして、ここには会議室等の特別教室の空室状況の予約みたいなもののタブが追加されたりだとか、日々の熱中症情報を見ることができたりだとか、先生方もいろいろな連絡事項の URL を貼って、ここから中に入っていくといろいろなものを見ることができるといことで、非常にこの 1 枚の中が充実するようになっていきました。

ここの部分を拡大していくと、これが何かと言うと、業務のタスク管理と言いますか、業務を遂行するにあたって必要なものをとにかく洗い出して、分担して、いついつまでにやりましょうというような、こういう業務の進め方が出てきたというふうに感じています。必要な仕事を洗い出して、担当者を決めて、どこまでできたのか、困ったことがあればコメントで書くようにしています。今までだと最初に役割を分担して最後に出来たかどうかですが、業務の遂行プロセスも随時共有しながら、見える化しながら効率よく業務を進めていくというような教職員の業務スタイルも出てきたというふうに思っています。そしてこういうふうにして業務、校務で日常的に使っていることが、授業で教職員自身も使うということに非常に効果的で、やはり双方向というか相乗効果が高いものだと感じています。

以上で玉湯学園の取り組みについて説明を終わらせていただきます。

○川上副教育長

前島教頭先生ありがとうございました。続いて松江市の ICT を活用した教育の推進について御説明をいたしたいと思います。

○学校教育課 ICT 教育推進係 石倉係長

学校教育課 ICT 教育推進係の石倉と申します。よろしくお願いたします。

私の方からは、松江市の現在の ICT 活用教育に関する現状というところを御説明させていただきたいと思います。

お手元に A3 の縦の資料を御用意しております。お手元のタブレットも同じ画面にさせていただいています。こちらに松江市における ICT を活用した教育の推進についてということで資料を用意しておりますのでそちらを御覧ください。

それでは説明をさせていただきます。

資料の一番上の基本情報というところですが、学校数や児童、生徒数を記載しておりますので御参考ください。

続いて2点目、松江市の現状ということで記載させていただいております。まずタブレットですが、このような台数で現在持っております。児童、生徒数と比べるとタブレット端末が少し多くなっております。配備したところから児童、生徒数が減少しておりますのでその分が台数としてはあるというところですが、その分各学校で故障したときの予備機ですとか、教育委員会として持っていて、現状余っているというほどのことではなくサイクルとして使わせていただいております。

続いて学習支援ソフトですが、現在3つのソフトを使用できる状況を整えております。このうち上から3つ目のGoogleワークスペースというのは、本日玉湯学園でも見ていただきました通りいろいろなことができるということで、現在松江市でも取り組みを進めていこうというふうに思っているものです。

続いて電子黒板ですが、現在各校の普通教室、特別支援教室、理科室へ配備しております。今日御覧いただいたと思いますが、台にキャスターがついておりまして移動が可能ですので、理科室以外の特別教室、音楽室や家庭科室、技術室といったところに持って行って活用していただいているという実績もあります。そういったところでの活用が非常に役に立っているという先生方の声もいただいておりますので、そういったところ今後についてはまたこちらでも検討をしていくというような状況です。

続いてデジタル教科書については御覧の通りでして、タブレットドリルについては御覧のように市内で統一して導入をしております。

タブレットドリルについては、児童、生徒が自由に家でもできるものになっていまして、どうしてもゲーム感覚になるというようなところで賛否あるのは確かに意見としてはございますが、自分の好きな単元を選択して進めることができたり、苦手なところはもう1回できたりというところを自分で選択してできる個別最適なものになっていますので概ね好意的に是非使っていこうということで進めているものでございます。

続いて現状の最後の部分、利活用状況というところですが、現在このような取り組みをしているというところですが、各機器については学校の方でいろいろな利活用を進めていただいております。持ち帰り学習というところでも実施校が増えており、利活用は進んでいるのではないかという状況だと思っております。

ただ先生によっては、こちらで導入しているもの以外にも全国的に無償で提供されるソフトやアプリケーションですとか教育用のものを先生の独自の判断で導入されて利活用されているというようなことがございます。

ただ先生全員がそういったわけではなく、活用に不安や困難を抱えている先生も確かにいらっしゃいます。そこで教育委員会としてですが、ICT 指導講師を配置して研修や各サポートを行っております。先ほど玉湯学園の前島先生から御紹介がありました、研修や公開授業も、市内の各学校の ICT を担当する先生に来ていただき、授業を見て情報を持ち帰っていただいて活用につなげていただくという取り組み等を行っております。

現在このような形で推進を行っております。

ICT の活用に関する各アンケートの結果と分析というようなところを書かせていただいております。それが別紙と書かれた A3 のもの 2 枚になります。様々なデータを載せさせていただいておりますので、簡単にまとめて御説明をさせていただきます。

1 枚目の調査①と書かれたところの、電子黒板について学校に答えていただいたアンケートで、電子黒板を 1 クラスあたりどの程度使ったかというアンケートですが、松江市は「毎日」と「週 3 回以上」を合わせると小・中学校ともに 100%となっております。週 3 回以上ですのでほぼ毎日と言って良いかと思っております。市内では先生方が非常に電子黒板を使っておられるということで、今日そういった状況も見ていただいたかと思えます。

続いて調査②です。児童、生徒に対して、タブレットを授業でどの程度活用したかというところについても、「毎日」というところでは若干全国平均より低いですが「週 3 回以上」を足すとほぼ 9 割と高い数値となっております。

これに伴ってですが、調査の④です。こちら教員のアンケートをもとにしたものです。ICT を活用する能力、または活用を指導する能力があるかという質問ですが、4 年度から 5 年度でかなり上昇しており、全国数値を大幅に超えております。令和 3 年度の数値は 4 年度より低かったということがありますので、GIGA スクール構想実現に取り組むようになり、年々活用が進んでいるというような状況を受けております。

しかし、本日の冒頭市長からも御説明がありましたが、2 枚目の調査⑤は子どもたちに聞いたアンケートということになります。子どもたちに対して、ICT 機器、主にタブレットですが、どの程度使用しましたかという質問に対しては、非常に低い数値といえますか、あまり使用していないという結果が出ております。なぜこのようなことになったのかを考えまして、まとめと分析のところの上に参考データというものを記載させていただいております。これは実際にこの調査で調べまして、タブレットに電源が入ったログというのを 1 年分とりました。そこから出した数字ですので、アンケートではなく

リアルな実数ということになります。それによると、休日祝日を抜いた平日の 202 日のうちで割り出しまして、4 割ほどのタブレットに毎日電源が入っているというようところが結果として出てきました。少ないかもしれませんが、休みの子ですとか学校によって運動会や学校行事がありますので、そういったことを加味すると、参考として出している稼働率は約 38.7%と書いてありますが本当はもう少し高い数値になるというふうには思っておりますので、実際のこのログを見てみますと学校のアンケートの回答に近いものになるかと思えます。つまり、実数から比べると、こどもたちは使用していないという印象を持っているのではないかと考えております。

なぜそういったことになったというところを一番下のまとめと分析にまとめさせていただきますが、実際にタブレットをこどもたちが触っているだけで上手く活用できていないということがあり、それがそういった印象を生んでいるのではないかというふうはこちらの方で考えてみました。使用している時間は同じでももっと上手く活用ができれば、使用しているという実感が湧いてアンケートも数字が上がってくるのではないかと考えております。

まとめて全体を通してもう 1 点気づいたことがありまして、調査⑥に戻っていただきますが、自分のタブレットの活用についての質問で、調査⑥ (5) の自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができるというところの数字が明らかに低くなっております。これは協働学習の不足からくるものだというふうには分析をいたしました。

協働学習は、タブレットなどを使ってリアルタイムで意見を集約して交換を行うことです。本日の視察の中で 3 年生が特にやっていましたが、1 つの電子黒板に皆の意見が集約されている画面があり、それぞれの児童が手元のタブレットで自分の意見を打つと、それが集約されているといったものが協働学習の 1 つと言えますが、それが市内で不足しているのではないかとうふうに感じております。ただ全国の数字を見たり全国のいろいろな自治体の担当者とお話をしたりしても、協働学習の推進というのを 1 つの課題にしているというお話を聞いていますので、松江市だけではなく全国的な課題として挙げられるものですので、今後そういったところを加味して松江市の方でも推進を進めていければというふうには思っておりますし、協働学習というのはアプリケーションを使っていることで、ICT の特性を活かした学習になり、ICT を上手く使っているということになるので、最初の、こどもたちは使用していないのではないかと印象を持っているところも協働学習を推進することで意識も変わってくるのではないかとこのように思っております。

おります。

以上が松江市の現状というところになります。

それでは資料の方戻っていただいて、3番目の課題と現在の取り組みというところですね。

本市の今後の課題というのを3つ挙げさせていただいております。

まず1つ目が個別最適な学びというところですね。こちらがGIGAスクール構想の根幹となっているような考え方でして、ICTを活用して、良いところを伸ばす、苦手なところをフォローするというものになります。これは全国的に進めていくものとなっております。今年度の取り組みとして調査・検討中と書かせていただいておりますが、これまでもタブレットドリルの機能などで成績データの蓄積などは行っておりました。しかし、市内全校で同じようなやり方で統一できないかと思っております。具体的にはGoogleワークスペースを使うといったところで簡易的に統一的な形でやりたいと思っております。そちらの調査・研究を進めているところです。

そして2点目は先ほど現状のところの説明させていただいた協働学習の推進ということですね。こちらでもGoogleワークスペースを玉湯学園に倣って活用を推進していき、アプリの有効な使い方をマニュアル化することで、苦手な意識を持っている先生で取り組んでいただいて、全体として進めていきたいと思っております。

最後、利活用の学校間格差というところですね。今までの説明でも触れましたが、どうしても学校によって取り組みに対する差というものは存在します。今日見ていただいた玉湯学園というのは、市内でも先進校と言っても良い学校になります。他の学校は模範校としてやり方を学んでいるところですので、そういったところはやり方を共有して進めていきたいということと、今年度の取り組みとして、学校間の連絡ツールというのを1つ設けました。ICTの活用について情報共有が一番大切と考えておまして、先生個人で学校の中だけで進めるのではなく、学校間で情報交換をしていただくようなツールを作って取り組み始めておりますので、そういったところを進めて市内全体の底上げを図るというところに取り組んでおります。

最後に説明としては以上になりますが、今回4番の意見交換のテーマとして2つ書かせていただいております。こちらをお聞かせいただいた上で自由な発言の場となっておりますのでいろいろな意見を聞かせていただければと思います。

以上が松江市の現状の説明となっております。ありがとうございました。

○川上副教育長

それでは意見交換に移らせていただきたいと思います。

授業の様子や先ほどの説明を踏まえまして、玉湯学園の取り組みについての御感想や御質問、また松江市の現状と課題に対する御意見等、その他御自由に御発言いただきたいと思います。

初めに上定市長いかがでしょうか。

○上定市長

見させていただいた感想からお話したいと思いますが、あまりお邪魔しない程度に児童、生徒の皆さんと触れ合うことができまして大変癒されました。

1年生もやはり当たり前ですが我々の時と全く違い、とても印象深く思いました。図工で写真を撮って作品カードに記入するというのが、文字を書くことはできるが当然高学年みたいにタイピングできるわけではないというのを、字を書いてそれがそのまま活字になってというのでずいぶん書いている子がいて、明朝体やゴシック体に変換していくことで作品の紹介という作品が作られていく過程というのが見えるのがすごく良いと思いました。

ちなみに私が見ていた子が、「た」と書きたいのですが、多分きちんと教えを守っていて、「た」を書くときに三画目を跳ねて、「こ」のように書くんですよ。そうすると全部「左」と認識されるんですよ。それを5回ぐらい繰り返して、少し書き方を変えたら「右」となったんですよ。「これは跳ねない方がいいよ。」と言うと「た」となっていて良かったです。そういうことも含めて経験をしながら自分の図工の作品に自分の工夫したところを書いていくというところで、2つのことを一緒に学んでいるような感じがあってとても良いと思いました。

3年生の消防団の服装の授業でのさっきの1年生との対比では、やはりタイピングが本当に速い子は、特に女子の速い子はすごく小さい字で15行くらい書いていることがあってすごいと思ったのですが、見たら結構誤字が多かったのでタイピングしたものを振り返ってみるというのも必要だと思いました。若干やはり3年生くらいになると、私が見たこどもの画面にもむらがありますが、かなり差があるという感じがしました。

先ほどの話の中で、複線型授業でどういう情報を入手してどのようにまとめるかを生

徒に委ねるということはすごく重要な話だと思います。

主体性やモチベーションがある子については任せてどんどんやっていって良いですが、そうではない子、サポートが必要な子をどのようにフォローしていくのかというところで、主体性がなかなかで自分から手を挙げることがない子も結構いると思うので、なかなかまた難しいなと思いました。

ちなみにこどもとのコミュニケーションの中で、私に「ちっちゃいつってどうやって出せばいいの。」と言われたので、私の出し方で、1とtsuで出ると教えたのですが、それで合っていたのか、そういうふうに教えていらっしゃるのかどうかよく分からなかったのですがまたフォローをお願いします。

それから4年生の玉湯川の授業では、教育長に教えてもらいましたが他の部屋と繋がるだけでなく他の学校と繋がることできるという可能性を感じました。

あとは少し実務的ですが、スプレッドシート。Windowsで言うMicrosoftのエクセルですよね。この4年生のタイミングからMicrosoftのエクセルが使えるようになるんだという新鮮な驚きというか、社会に繋がっていくというのが分かる授業だった気がしました。

最後の8年生はやはり4年生と比べるとレベルが全く違うと言って過言でないと思います。これはすごくプリミティブな質問ですが、ネット検索を皆がしていらっしゃったので、どこまでアクセスできるようなブロックをしているのかというのが単純に気になりました。

それとさっきの話を学習形態で、1人やペアやグループというのは自分で決定できるというのが、何となく1人でやっていると感じる寂しさだなのを思ったりして、隣でわいわい盛り上がりながらやっているのもそう感じましたが、それは後で振り返れば自分の希望が叶っていて、1人になってしまったということではないだろうと思うようにはしました。

私が見た生徒は、画面を真ん中で分けて二画面にして何かをしていて、どういうことなのか聞くと、右の方はグループで作ったスライドらしいんですよ。グループで作っているものも動いているのですが、それも見ながら自分のものをまとめているんだと。半分に分けて自分の意見とグループの意見を上手く行ったり来たりしながらというのが斬新で、そういうふうな考え方が8年生からできるのかというのはびっくりしました。

画面が前のところに出ているので、さっきの話仮に自分1人で授業を進めていたとし

でも、例えば自然環境とか農業と工業とか自分が何を選ぶのかというのがありますよね。この人も同じものを選んでいてというのがもし見えれば、そういうふうに行っていたら分かるか分からないですが、自分で選んだものと同じものを選んでる人がもし分かれば、その人のところに行って「あなた中部地方の工業どう思う？」みたいな話も実際に意見交換ができるというツールになっていると。

ただ自主性を本当に生かすのであれば、自分で能動的に全体がこう動いているというのを見ながら自分の研究をもう少し効率的にとか、話をしながらさらに実効性が高いものにできるだろうというような、指導にも可能性を感じたところでした。

授業の感想として申し上げさせていただきました。

○川上副教育長

ありがとうございました。

今市長のお話の中に少し質問があったかと思います。ネットへのアクセスをどこまで制限しているのかということ。

それから、学習形態についての何か課題点があるのかどうかということがありました。その辺玉湯学園さんいかがでしょうか。

○玉湯学園 前島教頭

まずネットの検索については、学校の方で何か制限というかフィルターのようなことはしていないというところですので、こどもたちの方で自分の学習の課題解決のために必要なものを検索するというスタンスで行っています。

先ほどの学習形態といったところですが、こどもたちが力をつけていくためには良い授業ですが、学級経営というのがやはり根幹にあるというふうに思っています。そこでこどもたちの考えだとか、自分自身の本当の気持ち、そういったものがしっかり出せて、友達との信頼関係、教師との信頼関係、そういったものがあって、自分は1人で学びたい、自分には友達と一緒に意見交換をする方が課題解決に効率が良いというふうな、こどもたちが自分自身の本当の気持ちをしっかりと出すためには、学級経営やこども理解が根幹にあると思っています。そういったところはしっかり学級経営をした上で授業づくりというところを皆で意識して行っているところです。

最初のインターネットのことについては補足いただいて良いですか。

○学校教育課 ICT 教育推進係 石倉係長

では、私の方から説明をさせていただきます。

タブレットでネット検索をする場合ということですが、フィルタリングソフトというのを導入しておりまして、松江市の職員が使っているパソコンにも入っている i-フィルターというものを採用しています。いわゆる例えば暴力的なものや卑猥なもの、セキュリティを使う上でブロックするものを線引きして、そちらについてはアクセスできないようなフィルタリングをかけております。

併せて、ネットの検索で見守りフィルターというのがありまして、例えば死にたいですとかそういったところの文字を検索した場合、もしくは表示させた場合は私どもの方に検索した結果が来るようになっておりますので、その場合は学校に連絡をして、この端末によってこういった検索がされましたので御対応をお願いしますということで危うくならないような措置をとっております。

○上定市長

Google ワークスペースの場合には端末を特定するのではなくて、ログインしたらそれが自分のパソコンになるということですよ。パソコンが特定されているわけではなくて、どのパソコンでもログインをすれば自分のパソコンになるというか、危険なワードが入ったというのはログインをしている人が特定できるということですか。

○学校教育課 ICT 教育推進係 石倉係長

端末を特定する形です。Windows 端末の場合は、現在は業者と契約しているところもありまして、端末ごとに管理をしていただいております。先ほどの検索結果やログというのは端末ごとに出てきます。

○上定市長

今は原則として多分 1 人がこのタブレット端末というのが決まっています。そんなに難しいことではないと。

○学校教育課 ICT 教育推進係 石倉係長

おっしゃるとおりです。それが多分 Google のアカウントに対しても似たようなことができますので、Google のアカウントの管理ということもできますし、Windows がなく、Chromebook という Google の専用端末と言いますか、パソコンタブレットを使っているところがありますが、そういったところではアカウントの端末と一対になって管理ができます。

○川上副教育長

続きまして教育委員の皆様いかがでしょうか。

原田委員をお願いします。

○原田委員

貴重な授業を見させていただきまして本当にありがとうございます。今回資料もたくさん作っていただいて分かりやすく、しかも事前にいただくということで、読ませていただきました。

授業に関して順番にお話できたらと思いますが、1年生は、1年生でこんなことをやっているのかというくらい高度なことをやっているなという感想です。タブレットを使いこなしている子はどんどんやっていきますが、ただ止まっている子が見えたのでそのフォローが大事だと思いました。

算数の授業でも教科書の二次元バーコードを読んで問題を出して、そこに多分ヒントというものがあるので、学習として使いやすく、QR コードを使う意味というのがあると思いますが、ヒントをどんどん使うように声掛けをしながら学習に使っていったら良いかなと思います。

ただ、タブレットで問題を解いたりノートで解いたりということもに任せる範囲が広がれば広がるほど、それをチェックするのは大変だろうなと思いました。先生のお仕事がちよっと増えるのではないかと思います。子どもが何を使ってどこまで理解しているのかというのは、市長もおっしゃっていましたが把握をしていくということが大事かと思います。

グループ学習をされていましたが、そこでもやはり個人の差が出ると言いますか、やっている子はやっている、できていない子はできていないというところがあったりですか、例えばグループは大体いつも決まっていると思いますが、そういう場合にやはり

タブレットを扱う子が決まってくると言いますか、その子がいつもやっていて周りの子はタブレットを触っていないという、その使っている子と使っていない子がいるというところが、やはりアンケートの「僕は使っていない。」という気持ちに繋がる部分もあるのかなというふうに感じました。

私が見させていただいた中で、総合的な学習だったと思いますが、進行役の子がいて、その子が皆の意見をまとめて、それをタブレットに打つ子が別にいて、その子が打っているという流れがスムーズにできているグループがあり、理想形ではないかと思いました。役割が変わっていくという、私たちがアナログですときの司会者や書記がいてという、そういう流れが、やっているところもあると思いますが、タブレットを使ってでもできると良いのではないかと感じました。

8年生のクラスで、画面をタブレットで映してオンラインで繋がっているという御説明をいただきましたが、休みの子でもそういうふうに通業が受けられるというのがやはりオンラインの良いところだと思いますので、インフルエンザで5日間休んだ最後の方の元気なところで通業に少しでも入っていくことができるようになると良いのではないかとこのように思っ、8年生は良い通業をされていると思いました。

松江市の現状についてですが、今タブドリを入れてもらっていてうちの子もしっかり使っていますが、あれを個人が苦手なところを選んでやっていくと良いのですが、大人もそうですが自分の苦手なところを頑張っ、やっていくところ、なかなか自分ではやっ、っていないところが気になります。夏休みは宿題としてしっかりと出していたのですが、良かったのですが、得意なところややりたいところを伸ばすのはすごく良いことですがやはり苦手なところをどうやる気にさせて使うようにしていくかという気持様と言いますか、そのあたりが重要になってくると感じました。

以上です。ありがとうございました。

○川上副教育長

ありがとうございました。

その他いかがでしょうか。金津教育委員よろしくお願ひします。

○金津委員

本当に貴重な通業を見させていただいてありがとうございます。

玉湯学園さんを見させていただいて感じたことは、玉湯学園さんが目指しておられる複線型授業というところで、私教育委員でも民間企業という立場なのでそういう観点から見させていただくと、非常にこの課題の設定、情報の収集、整理分析、まとめ、表現という一連の流れ、課題発見力は、ビジネスでも必要とされる課題解決力と併せて重要だと言われたりします。あとリサーチ力、それに対する分析力や、それに伴ってプレゼンをしてまた共有するという流れで、早くからこういう授業をしているこどもたちというのは将来が楽しみだと、デジタルネイティブという部分でもすごく強く感じました。

特に私が一番印象に残ったのは1年生の図工の授業で、市長も話されていましたが1年生から授業でこういうことをしているというのは非常に驚きで、作って終わりではなく、1年生からデジタルツールを使う、プレゼン力を養うというところで、上手く作っている子はすごく上手く作っていて非常にびっくりしました。良い取り組みができていますと思いました。

そういう中で疑問に思ったのが、ビジネスの世界ではやはり Microsoft のワード、エクセル、パワーポイント、今オンラインでいろいろやる場合はチームズと、かなり標準も上がってきている中で、OS は Windows を使っておられて、他の部分のところでもメリットが大きかったという想像はしますが、Google ワークスペースで似たようなソフトをチョイスされる理由をお聞きしたいというのと、今日見ることができたら良かったと思った、事前資料に興味を持ったキュビナをどのような感じのものなのか、また機会があれば見せていただきたいと思いました。

次に松江市の現状と課題に対することですが、分析していただいていることに現れているというふうに思いましたが、気になったのが調査②のところでも小学校と中学校で差があるという部分がどのあたりなのかという部分と、先生と生徒でのデジタルの利活用の認識の差があるという部分がやはりタブレットの活用感と言いますか、ただ使っているだけではなく、こんなことができたとかこんなことができるだとかそういう実感がまだ生徒の側で薄い部分があるのかなというふうなことも感じます。これは全体的なことでも玉湯学園さんの場合は少し違うのかなと思いますが、思ったことを話させていただきました。

ありがとうございました。

○川上副教育長

ありがとうございました。いくつか質問があったと思います。

まずワード、エクセル等、我々もそうですが主流になっているアプリケーションがある中で Google ワークスペースを今利用しているのはどうかということも、やはり実感としての玉湯学園さんの話プラス市教委の回答をお願いしたいと思いますし、併せてキュビナのこと。

玉湯学園さんの方をお願いしたいのが、調査②の方の小中の差のところを義務教育学校の上ではどうなのかというところを少しお答えいただけたらと思います。いかがでしょうか。

○玉湯学園 前島教頭

それではまず Windows 端末でも Google を今使っているということについては、本校のメディア担当の方からお答えさせていただこうと思います。

○玉湯学園 瀬崎教諭

失礼いたします。玉湯学園でメディアの ICT 関係担当しております瀬崎と申します。よろしく申し上げます。

中学校籍で主に技術とか理科の授業を担当させてもらっております。

昨年からリーディング DX スクールの指定を受けて、GIGA スクール構想で言われるところの汎用的なアプリケーション或いはクラウド環境を十全に使った取り組みをして欲しい、リードして欲しいということで、その学習の基盤となるものがやはり必要になります。

最初は市教委の方で整備していただいた Microsoft 系のワード、エクセル、パワーポイント、チームズといったものがありますので、特に後期課程ではそういうものを使えれば良いということで試してはみていましたが、まだ回線環境なんかの整備が十分ではなくて、少し協働的な学習をしようと思うと固まってしまう、使えないということが出てきました。

それからスカイメニュー。スカイというどちらかという前期課程の子どもたちが使いやすいアプリがありましたが、後期課程が使うには少し物足りない部分があります。クラス間を超えての共同作業が少し難しいことなどいろいろありました。

教育関係の他県の方ではかなり Google の方が使われているという状況もありまして、

調べてみると Google というのは Windows 環境の端末でも利用することができるということ、非常に軽いということで、リーディング DX スクールを進める上でそういったものを利用させてもらいたいということで市教委の方と相談をして、市教委の方できちんと Google と契約をしていただいて Google の正規アカウントで昨年使い始めさせていただいたという経緯があります。

今それをいろいろな学校にも広げていってくださっていますが、非常に使いやすくなくて、今 1 年から 9 年まで 760 人くらい児童、生徒がいますが、同時に使用してもほぼ固まらずに授業ができるということで、今の時点ではやはり Google で授業をさせてもらうのが今一番良い環境かなと思っております。

ただ汎用的なアプリケーションを使いましょうということで、別にワード、エクセル、パワーポイントがサクサク動く、協働的な学習を進める上でストレスなく使えるという環境が出てくれば、それはそれで Google のものよりも Microsoft が良いということも出てくるかもしれませんが、今の状況ではまだそれは難しいところがあるのでうちの学校では Google を使いながら、或いは県外の学校でも Google 使っているいろいろやっていますのでそういったものを参考にさせてもらいながら進めているというような状況があるということになります。

○学校教育課 ICT 教育推進係 石倉係長

私の方からも少し説明をさせていただきます。

補足のような形になって申し訳ないですが、Google か Microsoft 系のものかというところで、おっしゃる通りビジネスの世界ではワード、エクセルというものが対応されていますが、瀬崎先生からもおっしゃっていただいたように教育現場においては全国的に Google を使用しているところが多くなってきているというところがあります。

ビジネスの世界ではということで、小さい頃からワード、エクセルに慣れさせた方が良いのではないかという声も確かにありますが、互換性がありますし操作感もそんなに変わらないということで、大人から見るとこどもだと割と入っていきやすいのではないかとこのところでは。どちらかというところだと軽く速くて扱いやすく共同編集ができるというところでは Google を採用するところが多いところでもありますので、そういうところに倣うというのも 1 つ参考にさせていただくところが多いですので、そういったところで進めさせていただいているところもあります。

島根県内は高校が Chromebook を採用して Google アカウントで学習をしておりますので、今は Windows 端末で Google アカウントということになりますが、小中高と Google アカウントを使うことができたりですとか、ソフトウェアも同じものを使えるというところで、Google で取り組んでいこうというところも 1 つ理由としてあります。

それからキュビナですが、言っていたように AI を搭載したものになります。市内の学校では AI 非搭載のタブドリ Live! というものを今入れておりますが、実際に授業ですとか毎日の課題という形で進める上では先生がついていますので、AI を搭載しなくても良いのではないかという判断で、去年、今年はタブドリ Live! というものを入れるということを市内の校長先生に集まっていただいて決めていただきました。

ただ資料に書いてありますキュビナの方は、不登校の生徒、学校に行きにくい生徒が家で学習などをする際には先生がつかないということもありまして、苦手なところを繰り返し出してくれる AI を搭載した方が良いだろうということで、現在そういった形で導入をしております。

実際キュビナというのは AI 搭載の中でも、評判の良いソフトと聞いています。例えば算数だったら、掛け算と足し算の複合の計算でも、順番を間違えて計算した子に対してはそういったところを 1 回さかのぼって、なぜそうなったかというところを AI が判断して、何問も出してくれるというようなものだそうです。そういったところで 1 人ででも学習していけるというような形になっております。

調査の②のところでは小中の差があるというところで、どうしても予想でしかないところもありますが、小学校 1 年生でも使っていて、お褒めのお言葉をいただいておりますが、どうしても小学校 1、2 年生はまだタブレットを毎日使えるかというとなかなかそうではないところもあります。玉湯学園さんの方ではその中でも写真を撮るというようなところで使っていて、6 年生や中学生と比べると使用頻度が低いというところもあると思っております。

以上でございます。

○玉湯学園 前島教頭

先ほど御質問をいただいた小中の差というところを、数値的なものを実際肌感覚としてどういうふうに学校で感じているかというところですが、あまり差は感じないというふうに思っております。低学年からも使用を広げていっているというところではありま

す。

一方で、本校がこの取り組みを始めたのが今年の6月でして、結構使うようになってきたというふうにもこちらを感じるようになったのが去年の11月くらいからだと思っています。

そういうふうにして考えると、調査を取った時期にもよると思っています、子どもたちは使う環境さえあればもう多分どんどん使っていくと思います。

一方で、教職員の方がなかなかそういったものを使った授業というところに去年の11月くらいから本当に大きな渦になって大きな流れとして、使う教職員が増えてきているというところで、いろいろな調査結果についてはまだ過渡期ではあるというふうなのが受け止めです。

○川上副教育長

それでは、この順番でいきたいと思います。

塩川教育委員、いかがでしょうか。

○塩川委員

失礼します。塩川です。よろしくお願ひいたします。

今日は玉湯学園さんいろいろとありがとうございました。

まず、こちらの方に来させていただいたときに3年生ですかね、校外学習に出かける子どもたちがいましたが、とても気持ちの良い挨拶をしてくれまして、普段の学校経営、学級経営、生活指導をしっかりやっておられるということを実感しました。

また各教室を回っても、子どもたちが落ち着いていて、表情は明るく、そういう教育基盤がしっかりできているのではないかなという感想を持たせていただきました。

授業のことですが、先ほどからいろいろ出ていますので繰り返はしませんが、1年生の授業の中ではつまずきのある子どもさんもいるという実態があるわけですが、やはり1年生、2年生、3年生くらいまでのところは1人の担任の先生だけでは補えない状況なのかなと思いました。複数で指導に当たるとするのは難しいことだと思いますが、単元とか学習内容によってはマンパワーが必要かなという気がしました。

その他の授業については3年生ですかね、タブレットがない子がいて、どうしたのと聞いたら家に忘れたということで、その子が普段どういう子なのか分かりませんが何も

しないような状況でした。先ほど予備のものがあるということで、そういうところで配慮していただければ良いのかなと思ったりしたところでした。

やはり学年が上がるにつれてしっかり使いこなしているという気がしました。特に 8 年生です。本当に主体的でしっかりタブレットを使いながら学習ができているのではないかと思います。

2 年前くらいのテーマで松江一中の方に ICT の授業をとということで参加させていただきましたが、学校差があるとは思いますが 2 年前と比べても一人一人が自分のものになっているという実感を持ちました。

今後の課題と現在の取り組みに重なるかもしれませんが、先日文科省の研究協議会に参加させていただきまして、そこでも GIGA スクールについての説明を聞かせていただきました。皆さん御存じの状況だとは思いますが、ICT 活用の単純な使用頻度と学力調査の正答率は直接的な相関は見られないということでした。点数だけではないですが、これだけ ICT 教育推進ということを言われながら、結果的に学力向上に繋がっていない現状があるという再認識をさせていただきました。

ただしその中でも、主体的・対話的な学び、深い学びをしている学校、課題解決にしっかり取り組んでいる学校は、正答率もそれに反映しているということを説明されました。

今日のいろいろなお話の中では、一斉学習、個別学習、協働学習、この 3 つがテーマになっていますが、一斉学習、個別学習はある程度の積み上げがあればアプローチできるかなと思います。しかし、今は玉湯学園さんも松江市の方も協働学習が大事だと。まさにそれに繋がっているのではないかなと思います。深い学びが協働学習だけではないとは思いますが、そういう学習ができれば学力向上等に直接繋がっていくのかなという思いをしたところでした。

特に 8 年生の学習で市長さんもおっしゃっていましたが、工業とか農業とか各個人でテーマを決めて調べていて、近くにいた生徒が環境について調べていて、何人かそれについて調べている生徒がいるようでした。同じテーマで学習した情報の共有ができる話し合いの場はありますよね。これからかもしれませんが、是非今までの調べ学習をした深い学び、対話的な学び、主体的な学びはそういう最後の詰めをすることによって、学力向上にも繋がっていくのではないかと今日の授業を見て思いました。

いろいろ言って申し訳ありませんが、玉湯学園さんの研究の成果を、しっかり授業提

供しながら市内の学校に啓発していただいたようですが、是非とも今後もそういう形でやっていただきたいということと、学校間の情報、ICT に関してもそうですが、せっかく松江市には小中一貫という良いシステムがありますので、義務教育学校はもちろんできると思いますが他の学校についても各学園内での情報交換や身近なところで小中の取り組み等について、気軽にいつでも情報交換等できる体制ができれば、もっと効果があるのではないかという気がしました。

校務の DX について、私が現役のときには考えられない取組がありますが、教員の働き方改革にまさに直結することではないかと思いますので、これについてもまた良いモデルになっていただければと思います。

以上です。

○川上副教育長

ありがとうございました。

続いて大谷教育委員いかがでしょうか。

○大谷委員

今日は本当にありがとうございました。

玉湯学園は是非一度見学させていただきたいと思っていたので、今日は本当にありがたかったです。

皆さんがおっしゃっていたことですが、こどもの発達段階に応じて非常に上手に使っておられるということと、学級を超えて、学年を超えて、学校を超えて共有することになると思うのですが非常に上手にしておられて、調べ学習でも上手にしておられてということで、プラス、今日見てもそうですけど遊んでいる子がいないですね。皆授業に向かっていますよね。使い方はいろいろだと思いますがそれは非常に大きいというふうに思っています。中学生だと全然授業に向かない子が出てきてもおかしくないところを、今日見せていただいたところでは皆がそれぞれ真剣に授業に向き合っていたというふうに思いました。

先生方の DX について、校務 DX が先生方にも役に立ち、先生方が教室で子どもたちを指導する上でも役に立っているというのが本当に素晴らしいと思って見せていただきました。

その中で教えていただきたいと思ったのが、1年生の算数の授業で使い方が分からない子が一定いるというお話がさっきから出ているように、多分特に導入のところをもう少し人が必要で、使い方もそうですし。あと1つ伺いたかったのですが、デジタル教科書自体を学習で使っている部分を見る機会がなかったのですが、1年生を見ていると一応デジタル教科書が前に出ているがほとんど紙の教科書を使っていて、その使い分けをこどもたちが上手にできていなかったりよく分かっていなかったり、そのデジタルそのものの使い方が分からない子が何人かいたかなと思いました。そこはどこの学校を見せていただいても、高校でも、導入のときに人を増やした方がいろいろな意味で教員にとってもこどもにとっても円滑に入りやすいのかなというふうに1年生を見ていて思いました。

先ほどもお話ありましたように、複線型授業はとても素晴らしいと思いますが、どうしてもある意味逆に差が出てきてしまって、進められる子は自分の力でどんどん進んでいってどこに情報があって何を調べたら良いかが分かりますが、どうしたら良いか分からない子にとっては、適当にインターネットを見ながら数時間を過ごしているところがあるというふうに見えましたので、そこに支援の手が入るとどういうふうに進めたら良いかというのが分かりやすくなるというふうに思ったところです。

あともう1つ調べ学習があれだけ進んでいると情報リテラシーというところでどういうふうに授業というか時間を取っておられるかということと、私は英語なので生成AIとの付き合いがとても大切になってきているというか、調べ学習の延長でもありますが、生成AIとどういうふうに付き合うかというふうなところをもし玉湯学園さんの方で方針があったら伺ってみたいなと思います。

○川上副教育長

いくつか質問があったと思います。

まず使い方が分からない児童への対応について。それからデジタル教科書の活用、紙とのバランス等について。複線型学習によって差ができるところについてどうだろうかということ。情報リテラシーの学習について。そして最後生成AIについての考え方について。

以上5つ御質問あったかと思いますが、玉湯学園さんの方いかがでしょうか。

○玉湯学園 前島教頭

まずいろいろつまづいているこどもたちへの対応ということで、つまづきの内容もいろいろあるのかなと思っています。学習内容であったり、端末の操作へのつまづきであったり、いろいろあるかなと思っています。

1 つ実は去年から入ってもらっている取り組みとして、県立大学の学生さんにボランティアとして昨年度入っていただきました。この本校のリーディング DX の伴走というか助言に島根県立大学の先生に入っていることもあって、そのご縁で大学生の方に入っていて、昨年度ちょうど初めてこどもたちが最初電源ボタンを入れるなどいろいろな端末操作に関わって、ボランティアの方に入いただき大変助かりました。今回も1年生に関しては最初の操作のときに県立大学の学生さんに来てもらったことがあります。

学生さんも授業の合間ですとか教員採用試験ですとかいろいろなことがある程度一段落すると週に3回くらいという形で昨年は来ていただいてですね、今年度もまたそういうふうな形で端末の操作といったようなところに関してはいろいろなお力を借りることは検討していきたいというふうに思っています。

デジタル教科書の使い方については、効果的な使い方が端末の使い方なのか内容的なところなのかというのはもしかしたら最初のところと少し重なる部分があるかもしれませんが、使い方的なところでのいろいろなサポートが必要な部分に関しては、なかなか学校の教職員だけでは難しいですので、ボランティアさんの力も借りながらと思っています。

また、デジタルが良いのか紙が良いのかどちらが効果的なのかということに関しては、内容等を検討しながら、やはりこれは教職員もそして児童、生徒自らがベストミックスを図っていけるような、そういった情報活用能力の育成を目指していきたいと思っています。

また複線型事業に関して、やはりこどもの多様なものを多様な考えで進めていくとなるとやはり差がいろいろ見えてくるところもありますし、そこに対して難しいこどもたちへの支援といったようなところで、まず1つは全ての授業を複線型というふうには本校でも考えていません。やはり内容によっては、或いは発達段階に応じては、一斉学習の方がやはり効果的な場面もあるでしょうし、ただそういったところでもこどもたちにとって必要な課題設定、課題意識を持って取り組み、児童、生徒の頭の中は常にアクテ

イブであるということが非常に大きなポイントというふうに思っています。

そういった中で複線型の授業というのは様々な学習場面があって、情報収集の場面もあればまとめをするような場面もあります。そうすると授業の中で、或いは単元の中で情報収集をする場面ですっかりそういった機能を発達段階に応じてつけていく、或いはまとめ表現する力をしっかり発達段階に応じてつけていく。やはり総合的に複線型授業でダイナミックに子どもたちに任せるときにはそういった力が大きく発揮されますので、やはりそれまでの積み重ねのプロセスを大切にしていこうというところはこれまでも大切にしてきたことが改めて大事なことだというのを私たちも再認識しているところで

す。

そういった中で、難しい子どもたちへの個別支援というところについてはサポートしていきたいところだというふうに思っています。

情報リテラシーについては後にいたしまして、生成 AI についてはまだ今学校としてのこういうふうな方針というところは決めてないというのが正直なところですが、ただ、個々の教師の中からやはり子どもたちというのはもう実際の中でどんどんそういうところに触れていくものなので、授業の中でもそうですし、どういうふうに考えていくのか、そういったようなことをそろそろ校内の方でも考えていかないとはいけませんよねという声が出てきて、少し前に市教委さんの方とも御相談をさせていただいたというのが率直な今の進捗状況でございます。

では情報リテラシーについては、瀬崎さん補足いただいてよろしいですか。

○玉湯学園 瀬崎教諭

失礼します。

もう今もお話が出た中で現場の教員の立場から言わせてもらおうと、確かに授業をしていてなかなか子どもたちに手が回らないという状況が出てくることがあります。特にこういう機器とか新しいものの導入段階では授業以前にそういったものの扱いが上手くいかないということがあります。

他県のことを聞かせてもらったりするとやはり ICT の支援員さんというのを上手に配置させていただいて、各校に 1 人はすごく良い方ですが複数校で 1 校、何日かに 1 回は周ってきてくださるなど、事前にそういう導入の授業をするときには最初から手助けに入っていていただくような打合せの中でやっている学校もあって、リーディングということで、

少し意識した取り組みをさせてもらうときにやはりそういう相談できる人が必要だというように感じました。

今後またそういう ICT の活用などが学校に広がっていくと思いますが、次の GIGA の機器の整備といったところには是非そういう支援員さんというのを配慮していただくと現場としてはとてもありがたいというふうには考えているところです。

今リテラシーの話ですが、こういうデジタル化された情報に子どもたちも触れることが多くなり、手軽に触れることができるようになっていて、そういったものの真偽を確かめる、それをどういうふうに扱っていくか、付き合っていくかということができるようにしていくということはとても大事なことになってきています。

これまでも学校では情報モラルということで技術や道徳の授業の中で取り扱ったことがありますし、小学校の低学年の段階からいろいろやっていますが、最近松江市の方でも委員会さんの方からもデジタル・シティズンシップ教育といったことが取り上げられて、そういうものと上手く付き合っていく子どもたち、大人を育成する必要があるということで、うちの学校の方も 1 学期に 6 年生の方を対象にデジタル・シティズンシップ教育ということを意識した授業をさせていただくなど、少しずつということでの取り組みをしております。

また各教科の授業で見ていただいたところでの情報の取り扱い、そういったような場面、或いは総合的な学習の時間、高校では総合的な探求の時間というようにところに繋がっていくかと思いますが、自分で興味があるものを見つけて課題を設定し、調べて、人に伝えていくという学習の中で、そういう部分もしっかり育てていくことができると良いというふうには考えているところです。

最後、生成 AI ですが、実はリーディング DX の取り組み校の中でも生成 AI というのが 1 つありまして、本校でも生成 AI の取り組みにも手を挙げようかという話を 1 回してはいました。しかし、まだそういう体制は取れず少しハードルが高いということで見送った経緯がありました。もし今のリーディング DX の取り組みが進んでいき、次の段階ということになれば、そういったことも何かリードしていく学校として取り組んでいくというのも 1 つあるのではないかというふうには思っておりました。ですが残念ながら今の段階ではまだ取り組めていないという。

○川上副教育長

続きまして藤原教育長いかがでしょうか。

○藤原教育長

予定していました時間が過ぎていきますので、できるだけ端的にいきたいと思いますが、基本的に今日の視察のポイントであります ICT を活用した一斉学習、個別学習、協働学習への取り組みというところは、やはり社会に出たときに生きていくための力を身につけさせる、そういうことが一番の目的だと思っています。

私は常に自分の意見をまとめて、あなたはどう思うかというところをしっかり人前と言える力が大切だということを申し上げておりますので、そういった力を身につけるための ICT 教育であろうと思います。

もちろん知識が必要ですが、知恵というのはやはり非常に重要になって参りますので、それを発揮できる力というものを育成していきたいというふうに考えているところです。

経過を振り返りますと、令和 2 年度に電子黒板も含めてタブレットが入りました。私は令和 3 年度からこの問題にかかわるようになりましたが、令和 3 年の段階ではほぼ活用されていませんでした。活用できる環境がなかったと言った方が良いと思います。タブレットと電子黒板は配備してあるが、ほぼ置いてあるだけという状況でした。そこから通信速度の問題や配備されていない電子黒板の配備、先生用のタブレットはないというびっくりすることもありまして、そこを 3 年間かけて市長に理解していただいてしっかり予算もつけていただいて整備ができた。令和 5 年度くらいから、今度はどうやって活用するかという取り組みを開始しています。5 年度、6 年度、7 年度くらいで、それをしっかり各学校で定着させていきたいという考え方でこの問題に取り組んでいるところです。

そういう意味でさっきの情報リテラシー教育の大きな問題ですが、市長が先ほど言われましたが、誤変換、誤字脱字が多い。要はタブレットの中で起こっていることは全部正しいと思込んでいることが非常に危惧されることです。ひらがなで打つとこの漢字が出てきたと。パソコンがやってくれたからこれが正しいというくらいの認識というのは非常に危惧しているところでもあります。この問題については、まだ文部科学省が学習指導要領の中で具体的な指導の仕組みを作っていないというところです。

来年度の国の要望に向けて、この情報リテラシー教育の方針を示すことと、先ほどから出ている生成 AI の活用の方針を示して欲しいということを全国の教育長会議から文

部科学省に要請をすることにしています。

今は各教育委員会、各学校任せというのが実態ですので、しっかり方針を出していきたいというふうに思っています。

1、2年生のときにどこまでタブレットを活用するかということもですが、その段階で、同時並行で情報リテラシー教育ができる体制を作っていく必要があると思っています。その上でのICTの活用になると思いますので、そういう形になれば良いと思っています。

今日見させていただいていろいろ意見が出ましたが、やはり児童、生徒の理解度をどのようにして把握していくのかというのが非常に難しい課題であろうと思っています。授業の45分は本当に短くてあっという間に終わっています。今のやり方は思考過程が残るので、それを踏まえながら理解度を把握していくということもあると思うが、今はタブレットを使った授業をするのにいっぱいいっぱいの状況でもありますのでなかなかそれも難しい状況です。

そのあたりの児童、生徒の理解をどのように先生が把握してフィードバックしていくことができるのかというところをしっかりと取り組んでいかななくてはならないというふうに思っています。

やはりアンケートの結果として、教える側の先生の意識と受け取る側のこどもの意識に乖離があるという大きな事実があります。この問題は、教育というのは常に教える側の先生が調査研究して、こういうふうに改善してフィードバックしましょうという仕組みで今まで進んできましたが、なかなかこどもの意見を内容に反映させるという取り組みがやはり少なかったのではないかというふうに私は思っています。是非ともこどもは先生の授業をどういうふうに受け止めているのか、どうしたら改善が図れるのかというところもしっかり大人として考えていく課題だというふうに思っています。

1年生がタブレットを授業に導入するときのサポート体制というのは非常に重要だと思っています。デジタルネイティブとしてやはりこれは必須の能力ということになりますので、社会に出てからも当然必要な能力になります。ここをしっかりと身につけるための人的な配置という部分も併せて検討していければというふうに思ったところです。

最後に、学校の校務DX。働き方改革でものすごくプレッシャーをかけて検討してもらっていて、そこは実践の中で効果が出ているということが今日分かりまして、本当に頑張ってもらっていることに感謝したいと思います。

併せて、この問題はもしかしたら我々市役所の仕事に対してもすごく示唆に富んだも

のであろうと。これはもっと取り入れることによって私たち市の人たちの仕事の仕方の変化にも繋がるのではないかというふうに思って話を聞いていました。

最後、こどもたちのために我々は何ができるのかというところが一番のぶれない方針だというふうに思っていますので、学校現場と教育委員会は一体になってこの問題にも対応していければというふうに思っています。

以上です。

○川上副教育長

ありがとうございました。

時間が参っておりますが、意見交換をこれで終了させていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

本日は貴重なお時間をいただきありがとうございました。

そして玉湯学園さんにつきましては、貴重な実践の提供、丁寧な説明、会場の提供等をしていただきました。本当にありがとうございました。ここで拍手をもって感謝の意を伝えたいと思います。

それでは、予定しておりました事項を全て終了いたしましたので、以上をもちまして令和6年度第1回松江市総合教育会議を終了いたします。

長時間にわたり貴重な御意見をいただき、ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

本日はお疲れ様でした。お気をつけてお帰りください。